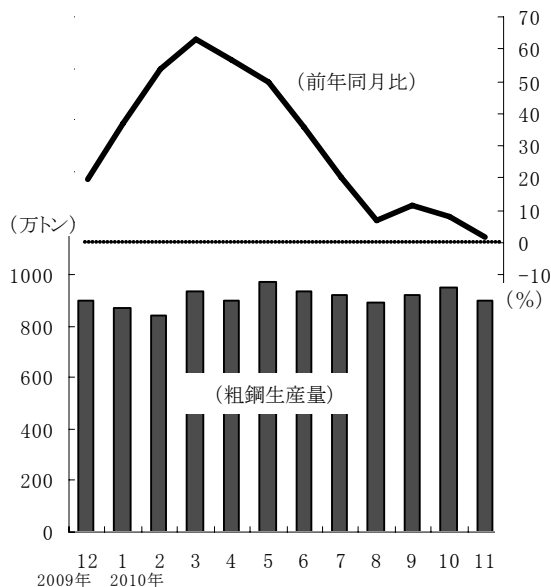




続いて2カ月連続して減少し、減産基調がやや深まった。1～11月の累計生産量は、1億42万トン（前年同期比27.8%増）となり、12月が当月と同水準の日産量（29万9,500トン）で推移した場合、1～12月の暦年生産は1億970万トンとなり、1億1千万トンを若干下回る見込みとなっている。

図1 粗鋼生産の月次推移



財務省が発表した11月の鉄鋼貿易統計によると、輸出（全鉄鋼ベース）は前年同月比9.6%増の354万8,000トンとなり、再び前年比増に転じた。11月としては、2009年に記録した323万7,000トンがこれまで過去最高であったが、それを大幅に更新した。輸入は同6.8%増の62万1,000トンと11カ月連続で前年を上回った。国別輸出では、韓国・台湾などアジアNIE's諸国向けが130万2,000トン（同0.9%増）とわずかながら5カ月ぶりに前年比増に転じ、中国向けは63万6,000トン（同18.4%増）と2カ月連続で増加し、ASEAN向けも94万9,000トン（同7.5%増）とアジア向けがいずれも堅調だった、アジア以外では米国向けが12万8,000トン（同58.0%増）、中東向けが10万5,000トン（同20.9%減）、EU向けが5万4,000トン（同2.9倍）、ロシア向けが1万2,000トン（同7.9倍）だった。国別輸入ではアジアNIE'sからが34万トン（同28.0%増）、中国からが11万7,000トン（同53.3%増）、ロシアからが2万2,000トン（同48.9%減）だった。

#### ◆下期の鋼材価格交渉、難航

2011年1～3月積み主要鉄鋼原料の日本高炉企業と山元との間との価格交渉が概ね決着したが、それによると鉄鉱石価格は10～12月積みと比較して約8%値上がり確定した。指標となる中国向けのスポット価格（9～11月平均）が、トン当たり約148ドル（中国着価格、豪州産粉鉱石で鉄分62%）に確定したために、日本向けも同程度の値上がりとなった。豪州産の代表的な粉鉱石でFOB（本船渡し）価格で137ドル程度になる見通しで、10～12月積みの127ドルに比して10ドル程度の値上げとなる。また、原料炭の1～3月積み価格交渉は新日鉄・JFEスチールと豪州の石炭サプライヤーBMAとコークスの主原料である高品質強粘結炭の価格を10～12月積み比7.7%引上げ、トン当たり225ドル（本船渡し価格）とすることで合意した。この結果、2010年度の平均価格は215ドルとなり、前年度（129ドル）に比して約1.6倍に上昇した。

これらの原料価格の決定に伴い、高炉メーカーと自動車、造船、電機、建産機メーカーなど需要家との間で2010年度下期(10～3月期)の紐付き鋼材価格の交渉が始まった。高炉メーカーは、今下期には上期比で使用ベースの原料コストがトン当たり4～5,000円上がることを受けて、再生産可能な価格に改定すべく値上げ方針を打ち出している。一方、需要家側は、年間での鋼材調達コスト計画に基づく受け入れ可能額を打ち出しているが、現状では彼我の主張には大きな開きがあり、交渉は難航し、大半は越年となる見通しである。

#### ◆2011年度粗鋼1.1億トンを維持、鉄連見通し

鉄鋼連盟はリーマン・ショック後、不透明感が強いとして、鉄鋼の需給見通しの発表を見送っていたが、このほど3年ぶりに見通しを公表した。それによると、2011年度の日本経済は、景気対策の終了で消費・生産活動は反動減が見込まれるものの、住宅投資の緩やかな回復と中国など新興国の需要に支えられた堅調な輸出により、国内総生産はプラス1.2%前後となると見込んでいる。国内鉄鋼需要は、自動車・家電などの内需は落ち込む一方、住宅・設備投資関連が回復傾向をたどることで、全体では微増ないし横這いとなると見通している。一方、輸出については、円高傾向や東アジアでの新規設備稼働を不安材料として挙げつつも、アジア新興国の需要増を背景に年間4,000万トンを維持すると予測している。その結果、2011年度の粗鋼生産量は1億1,000万トン程度になると見通している。

#### ◆神鋼、インドで事業展開進む

神鋼と印・エッサールは自動車用鋼板の製造に関する事業化調査(FS)開始の覚書を締結した旨を発表した。連続焼鈍ライン(CAL)と連続亜鉛めっき鋼板ライン(CGL)を持つ工場を合弁で建設する方向で調査を行う。両社は合弁事業の可能性について設計、建設、操業などの点から1年かけて調査を行う。生産規模、投資額については未定だが、事業化が可能と判断された場合、建設に約2年かけ2013年に稼働する見込みとなっている。

また、神鋼はインドの国営製鉄会社SAILと鉄鋼・同関連事業で包括提携を結ぶことで合意し、覚書を締結した。両社合同の専門チームを立ち上げ、共同事業や技術協力などの具体策を検討する。両社は既に神鋼が保有する次世代型の鉄源製造技術(アイティー・マークスリー)を活用した共同事業を検討中とされている。この関係をさらに深化させるために、包括提携を結ぶことにしたとされる。ただ、神鋼は既にインド鉄鋼メーカーのエッサールと包括提携を結んでおり、一部分野については提携の対象としない見通しである。

#### ◆11月世界粗鋼生産、2カ月ぶり前月比減

世界鉄鋼協会のまとめによると、11月の世界粗鋼生産(66カ国)は、前月比2.8%減(前年同月比5.1%増)の1億1,411万8,000トンと2カ月ぶりに減少した。中国は0.3%減と2カ月ぶりに減少し、中国以外は4.7%減と3カ月ぶりに減少した。66カ国の粗鋼日産量は、前月比0.5%増と3カ月連続で増加した。中国は3.1%増と、6カ月ぶりに増加に転じた10月の1.5%増から増加幅が拡大し、増産基調に入った。66カ国全体の製鋼操業率は75.2%と10月の75.3%をわずかに下回った。直近で底だった8月の73.4%からは改善しているが、80%を超えていた8月以前と比較して低下したままとなっている。1～11月の66カ国生産は12億8,079万トンと前年同期比16.2%増加した。12月の粗鋼生産が11月並みならば、年間で14億トン近くに達し、2007年の過去最高(13億4,582万トン)を上回るのは確実となっている。 □